会報
第76号
2020年3月
アルテピア
一般社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北3条西18丁目2－7 新田ビル2F　TEL･FAX 011－644－4025
https://www.artepia.or.jp

深井隆《逃れゆく思念－青空または瞑想》

1991年　クス･金箔　135.0×130.0×55.0㎝（北海道立旭川美術館蔵）

椅子であって椅子ではない。深井隆の《逃れゆく思念－青空または瞑想》は、椅子をモチーフとした彫刻である。脚や座面や背板をもち、造形的には椅子以外のなにものでもない。しかし当の作者は「基本的に人間を表している」と明言している。なるほど、空座の椅子はそこに座っていた人間の不在感を醸すし、座面に残された本とリンゴは、かつてそこにいたはずの持ち主の存在を想起させる。

深井は、1951年、群馬県に生まれた。東京藝術大学で彫刻を学び、同大学院を修了。抽象彫刻が全盛のなか具体的な形を彫ることにこだわり、その姿勢が評価されて89年には平櫛田中賞を受賞。東京藝術大学で教鞭を執るなど、後進の育成にも努めた（2019年退官）。

本作は86年にはじまり現在も続く代表的なシリーズ、「逃れゆく思念」のうちの1点である。作家曰く、金色の翼は「希望」や「自由」の象徴で、ロンドン留学時に大英博物館で目にした天使の絵に触発されたのだという。強い輝きと異素材感を得るために、絵の具ではなく金箔を用いて彩色されている点も特徴的だ。

本作は、当館で開催中のコレクション展「イロイロな木」（3/15まで）に出品されている。木を彩色することによって成り立つ表現の数々を紹介する企画である。金色の輝きがいかなる効果を生んでいるか、実際に確かめていただきたい。

（北海道立旭川美術館主任学芸員　門間　仁史）

蜷川実花展

MIKA NINAGAWA

―虚構と現実の間に―

2020年4月25日(土)
▶6月28日(日)

札幌芸術の森美術館　学芸員
坂本 真惟

《earthly flowers, heavenly colors》(2017年)

蜷川実花といえば、原色を多用した幻想的な舞台が特徴の写真や映画を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。刊行された写真集は100冊を超え、2019年には『Diner ダイナー』、『人間失格 太宰治と3人の女たち』と映画を立て続けに発表し、日本を代表する写真家、映画監督として最前線を走り続けています。また2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事も務め、ジャンルにとらわれない幅広い活動は勢いを増すばかりです。

蜷川作品には写真でも映像でも、鮮やかに彩られたポップなモチーフが登場します。それらは画面に華やかさを与え、一瞬にして人々の目を奪います。しかしそれだけではなく、美の背後に潜む闇にも目を向け、生や死、人間の欲望をしっかりと写し取っているのです。墓地にある造花を撮った写真集『永遠の花』以降は、美と隣り合わせの影の要素をよりストレートに表現するようになっていきます。

死者へ向けられた枯れない花

グアムなどの南国では、生花は暑さですぐに枯れてしまうために造花を手向ける風習があります。生を終えた死者が眠る墓地に布の花が永遠に咲き続ける光景は、蜷川の心を強くとらえました。自然を模した朽ちることのない人工物は、晴れ渡る青空の下で強い日差しに照らされ、不自然なまでに鮮やかな情景が生み出されています。「良い写真が撮れる時、私は必ず、この世とあの世の境目のような、無意識の宙ぶらりんなところにいる」と言うように、極度にクロースアップした画面では、生と死、自然と人工といった概念の境界が曖昧となり、その領域を彷徨う蜷川自身の状態を追体験させてくれるかのようです。鮮やかであればあるほどに、内側に広がる濃い闇。永遠の美しさを求めることがかえって死を意識させるということに気づかされます。

《永遠の花》(2006年)

変わらぬ生命力

２０１１年に発表された写真集『桜』は東日本大震災の直後に撮影されたものです。日本中が激しく動揺し、さまざまな行動を起こす人がいるなか、蜷川は自分自身を保つためにも東京に残って撮影することを選びました。例年、新宿御苑は桜を見る大勢の人で賑わっているにもかかわらず、この年はほとんど人が見当たりません。そのような不思議な光景の中で、蜷川は誰に見られることなく散っていく桜を撮り続けました。作品からは感傷的な雰囲気は一切感じられず、満開に咲く美しい桜が画面いっぱいに広がっています。生活が一変した震災直後に撮られたこの光景は、日常の不安定さと自然のみなぎる生命力との対比が強調されています。

《桜》(2011年)

死と向き合う

前述の作品とは一線を画すものとして『うつくしい日々』が挙げられます。この写真集は父・蜷川幸雄が亡くなる前後1ヶ月のあいだに撮影されたもので、写真だけではなくテキストも含めて物語性のある内容になっています。死に向かう父がこの世界を見られなくなると思うと「世界はますます美しく、キラキラしていて、どの風景も眩しく見え」、全編にわたって目がくらむほどのまばゆい光が印象的です。これまでの作品では華やかさの裏側の闇を表現し、表裏一体である生と死を浮かび上がらせていましたが、本シリーズでは身近な人の死と向き合い、そこに寄り添っているようです。そして病室の父、影として写される娘とその子といった命の連鎖をも感じさせます。

《うつくしい日々》(2017 年)

本展では「虚構と現実」をテーマに、代名詞となった極彩色の花々や著名人の肖像のほか、「うつくしい日々」、「Self-image」、「PLANT A TREE」など、これまで見えていなかった〝蜷川実花〟自身の内面にも着目していきます。個々の作品はもちろん、それらで構成された展示空間そのものもお楽しみいただけます。あふれんばかりの色彩で満たされた展示室内では、虚構と現実の間を自在に行き来する蜷川の世界を、文字通り「体感する」ことができるでしょう。

《うつくしい日々》(2017 年)

All images ©mika ninagawa,Courtesy of Tomio Koyama Gallery,

近代美術館

キスリング展
エコール・ド・パリの巨匠
4月25日(土)～6月21日(日)

ポーランド出身のキスリング(Kisling、1891－1953)は、エコール・ド・パリを代表する画家の一人です。ピカソや藤田嗣治、親友モディリアーニらの影響を受けながら、自身の作風を模索し、丁寧な筆致による洗練された写実主義と華麗で透明感のある色彩による官能的な作風を確立。そのミステリアスな雰囲気をたたえた造形世界は、多くの美術愛好家を魅了しました。

また、キスリングはその陽気で社交的な性格から多くの仲間に愛され、時代の寵児へと駆け上がりますが、出自がユダヤ系であったこともあり、一時アメリカへの亡命を余儀なくされるなど、華やかさだけでは語れない劇的な人生を送りました。

本展では、パリに出て間もない初期から、滞米時代を通して晩年にいたる円熟期の作品までをご紹介します。激動の時代を駆け抜けたキスリングの画業を国内外の美術館や個人蔵の名作により振り返ります。

キスリング
《ベル=ガズー(コレット・ド・ジュヴネル)》1933年
カンティーニ美術館、マルセイユ
©Musée Cantini, Marseille

mima三岸好太郎美術館

アートギャラリー北海道
太陽の森 ディマシオ美術館コレクション
4月24日(金)～7月5日(日)
7月16日(木)～8月30日(日)

アートギャラリー北海道事業として「太陽の森 ディマシオ美術館コレクション」展を常設展2期「変幻する詩情の花」、3期「節子がつづる好太郎」と同時開催します。

ゆたかな自然につつまれた北海道新冠町太陽に廃校となった小学校を再生して誕生した同美術館。1980年代から幻想絵画の鬼才として注目を集めたジェラール・ディマシオ(1938年アルジェリア生。国籍フランス、イギリス在住)の代表作200点以上を展示。9×27メートルの世界最大級の絵画をはじめ、独自の幻想的な世界観を示す多彩な作品が並び、地域観光の拠点として多くの来場者を集めています。

本展では、今年開館10周年を迎える同美術館コレクションからディマシオの油彩と素描十数点に、ルネ・ラリックのガラス3点を加えて紹介。7月より道立近代美術館でも開催します。

ジェラール・ディマシオ　1987年
太陽の森 ディマシオ美術館蔵

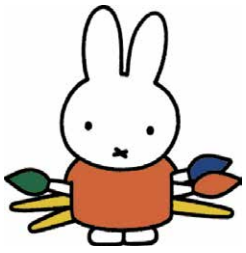
旭川美術館

美術館に行こう！
ディック・ブルーナに学ぶ
モダン・アートの楽しみ方
4月25日(土)～6月28日(日)

「ミッフィー(うさこちゃん)」の絵本は世界中で読まれています。『うさこちゃんびじゅつかんへいく』という絵本のお話しに沿って、旭川美術館の絵画、彫刻などを紹介する展覧会がゴールデンウィークから始まります。

今年誕生65周年を迎えるミッフィー。その生みの親であり、絵本作家、グラフィック・デザイナーとして知られるディック・ブルーナは、オランダのユトレヒトに生まれました。若い頃にパリやロンドンでピカソやマティスといったモダン・アートに影響を受け、デザインの仕事も多く手がけています。

本展では、ブルーナが手がけたポスター、ペーパーバックなどを展示する他、ミッフィーをはじめとする絵本をどのように作ったのかを紹介するとともに、工作ができるコーナーもあります。美術館の作品とブルーナの魅力をどうぞお楽しみください。



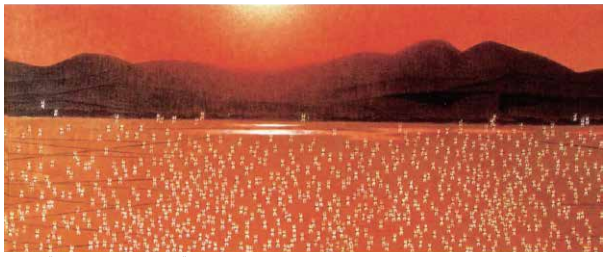
©Mercis bv

函館美術館

アートギャラリー北海道
《道産子追憶之巻》と日本画の名品
道立近代美術館コレクション選
道産子日本画家のニューフェイス
葛西由香の世界
7月4日(土)～8月30日(日)

岩橋英遠《道産子追憶之巻》は、北海道の自然と人々の営みを、季節の移り変わりと一日の時間の流れに重ねて描いた、全長29mの絵巻です。本展では、本作をはじめ、北海道立近代美術館の日本画コレクションから選りすぐりの名品をご紹介します。橋本雅邦、横山大観ら近代日本画の巨匠たちの秀作、山口蓬春、片岡球子ら北海道が輩出した個性豊かな日本画家の作品をご覧ください。

また、北海道在住の若手画家を紹介する「アートギャラリー北海道」の一環として、網走出身の日本画家・葛西由香の作品をご紹介します。国宝《平治物語絵巻》に着想を得て、株式会社明治の「きのこの山」と「たけのこの里」の合戦を描いた《明治物語》(網走市寄託)など、ユニークな発想と才気に溢れる日本画をお楽しみください。



岩橋英遠《道産子追憶之巻》(部分)1978-82(昭和53-57)年　北海道立近代美術館蔵

帯広美術館

道立釧路芸術館・釧路市立美術館・道立帯広美術館 コレクション選
アートの翼ひろげて
4月25日(土)～6月24日(水)

美術は、作者の自由な発想や想像力によって制作され、また一方でみる人の自由な受け止め方や感じ方、解釈によって鑑賞することができるものです。伝統や規範に囚われることなく、思いもよらない世界や伸びやかな造形を生み出し、表現の翼を広げた美術作品は、みる人の心を解き放つような力を有しています。

作者独自の主題や色と形、また、意表をつく発想や表現、美術に用いられるとは思われていなかった素材や、従来のやり方とは異なる技法、それらの組み合わせによる思いがけない効果。これまでに見たことのない、あるいは今までに見たものとはズレの生じる情景や物体、人物などが、作品をとおして立ち現れます。本展覧会では、「美術」の概念を押し広げてくれるような作品を紹介します。

丸山直文《Color Shadows》2003-2004年
北海道立釧路芸術館蔵

釧路芸術館

没後20年　毛綱毅曠の建築脳
7月18日(土)～10月11日(日)

毛綱毅曠（1941年～2001年）は、釧路市に生まれ、神戸大学に学んだ。1980年代から1990年代にかけて、風水を大胆に採り入れた設計手法、奇抜とも思える構想等による個性的な建築を日本各地に残し、ポスト・モダン建築の旗手として高く評価された。

釧路市は毛綱の生まれ故郷であるとともに、釧路市立博物館、釧路市湿原展望台、フィッシャーマンズワーフMOOなど、彼の建築が地域の魅力を高めてきた場所でもある。一方で今後、避け得ない建築の老朽化は、毛綱建築の将来という課題を地域にもたらすであろう。

本展では、毛綱毅曠没後20年を前に、図面、模型、版画、写真、関連資料等によって彼の建築思想と活動を検証するとともに、地域の文化遺産としての毛綱建築の位置づけについて、地域の人々とともに再考することを目指す。

毛綱毅曠設計
「釧路市湿原展望台」内部（1984年完成）

札幌芸術の森美術館

日本フィンランド外交関係樹立100周年記念 ムーミン75周年記念
ムーミン展 THE ART AND THE STORY
9月12日(土)～11月3日(火・祝)

フィンランドを代表する芸術家、トーベ・ヤンソン（1914～2001）が生みだした「ムーミン」シリーズは、小説、絵本、新聞連載コミック、アニメ、商品などさまざまな形で親しまれています。本展では、ムーミンの原点である9冊の小説の挿絵原画を中心に、誕生のきっかけとなった1940年代の風刺画から、企業広告やグッズ、フィギュア、また舞台に至るまで、フィンランドのムーミン美術館とムーミンキャラクターズ社が所蔵する貴重なコレクションをとおして、多様に展開するムーミンの魅力を紹介します。

2020年はトーベ・ヤンソンがムーミンシリーズの最初の小説『小さなトロールと大きな洪水』を発表してから75周年。多様性と寛容、愛と友情、人に親切にすること、自由と孤独、自然との共生など、普遍的な価値観が込められたムーミンの物語は、時代を超えて世界中で愛されてきました。75周年のこの機会に原点に立ち返って、あらためてムーミンの世界に触れてみてください。

トーベ・ヤンソン《イースターカード原画》
1950年代　グワッシュ、インク・紙
ムーミンキャラクターズ社
© Moomin Characters™

本郷新記念札幌彫刻美術館

舟越桂展　ことばの森
7月23日(木・祝)～9月27日(日)

彫刻家・舟越桂は、厳(おごそ)かな静寂のなかにたたずむ人物像によって、人という存在の重みと深遠さを表現してきました。人のまとう柔らかな空気までも漂わせるその身体と、不可思議な光を宿した瞳は、物質的な次元を超えて、作品に向かい合う私たちに語りかけてくるかのようです。

本展では、舟越作品の魅力を「ことば」というキーワードによって再考します。北海道内に所蔵される彫刻作品6点を初めて一堂に集め、舟越自身によるエッセイ集に収められたことばやデッサンとともに紹介します。あわせて、詩的な響きをもつタイトルと作品の関係にも着目し、舟越の作品世界における「かたち」と「ことば」の関係を探ります。

舟越桂《雪の上の影》2002年
札幌芸術の森美術館蔵
撮影 前澤良彰

MUSEUM CALENDAR
2020.4～2020.10

美術館のおもな展覧会ご案内

□は特別展示室　□は常設展示室
濃色はアートギャラリー北海道

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館		4/18(土)～6/21(日) エコール・ド・パリの巨匠 キスリング展		7/4(土)～9/6(日) エジプト展		9/19(土)～11/8(日) 没後50年 神田日勝　大地への筆触	
		4/18(土)～6/21(日) (1階) わたしと絵のあいだに　／　ひと・ヒト・人 (2階) なんちゃってカエル名画展 新収蔵品展 この1点を見てほしい		7/4(土)～9/6(日) (1階) 山川草木　／　美は自然に宿る (2階) 太陽の森　ディマシオ美術館コレクション この1点を見てほしい		9/19(土)～11/8(日) (1階) ヴィジュアル・ガストロノミー (2階) 太陽の森 ディマシオ美術館コレクション この1点を見てほしい	
	TEL 011-644-6882　道近美　検索						
三岸好太郎美術館	4/4(土)～4/12(日) 所蔵品展 第1期 子どもと楽しむ mima	4/24(金)～7/5(日) 所蔵品展第2期　変幻する詩情の花		7/16(木)～8/30(日) 所蔵品展第3期 節子がつづる好太郎		9/11(金)～11/29(日) 所蔵品展第4期 ロマンティストの札幌一好太郎の原点	
		4/24(金)～7/5(日) アートギャラリー北海道 太陽の森　ディマシオ美術館コレクション		7/16(木)～8/30(日) アートギャラリー北海道 太陽の森　ディマシオ美術館コレクション		9/11(金)～11/29(日) アートギャラリー北海道 #みまのめ　VOL.6	
	TEL 011-644-8901　mima 三岸美術館　検索						
旭川美術館	4/7(火)～4/12(日) [貸館] 第75回記念 新ロマン派会員・会友展	4/25(土)～6/28(日) 美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方		7/11(土)～8/30(日) 令和2年度国立美術館巡回展・ 京都国立近代美術館所蔵品展 京(みやこ)の美術－洋画、日本画、工芸		9/12(土)～11/1(日) 北の水彩	
		4/7(火)～6/28(日) Amazing　Woodcraft　椅子と箱の世界		7/11(土)～8/30(日) 旭川ゆかりのアーティスト		9/12(土)～11/1(日) 旭美・この一点―黒田辰秋 《神代欅彫文飾棚》	
	TEL 0166-25-2577　旭川美術館　検索						
函館美術館		4/25(土)～6/14(日) 愛するひと やなせたかしの世界	6/20(土)～6/26(金) [貸館] 第61回北海道書道展函館展	7/4(土)～8/30(日)アートギャラリー北海道 《道産子追憶之巻》と日本画の名品 道立近代美術館コレクション選 道産子日本画家のニューフェイス 葛西由香の世界	8/31(月)～10/2(金) 施設改修工事による 全館休館	10/3(土)～11/29(日) リサ・ラーソン展	
		4/25(土)～8/30(日) [常]ハコビ・コレクションのニュー・カマー　[鷗]鷗亭と賢治・光太郎				10/3(土)～2021/1/31(日) [常]鷗亭と啄木 [鷗]東洋陶磁の粋	
	TEL 0138-56-6311　函館美術館　検索						
帯広美術館		4/25(土)～6/24(水) 道立釧路芸術館・釧路市立美術館・ 道立帯広美術館 コレクション選 アートの翼ひろげて		7/4(土)～9/6(日) 京都六道珍皇寺"心音図"奉納記念 中島潔 "今"を生きる －そして伝えたいこと		9/19(土)～12/6(日) 蜷川実花展 ―虚構と現実の間に―	
		4/25(土)～6/24(水) 季節のおもかげ		7/4(土)～9/6(日) 道東プリントアートの地平		9/19(土)～12/6(日) 旅立ち―作家たちの青春	
	TEL 0155-22-6963　帯広美術館　検索						
釧路芸術館	2/28(金)～4/12(日) ワカリタイ ゲンダイビジュツ／ 高坂和子の世界	4/25(土)～7/1(水) 北海道・鉄道開業140年 Part1　急行「ニセコ」1971年冬～蒸気機関車C62栄光の記録～ 荒川好夫写真展 Part2　ロマンチック北海道への旅～ 栗谷川健一ポスター展		7/18(土)～10/11(日) 没後20年　毛綱毅曠の建築脳			
				8/29(土)～9/27(日) 大漁旗展　つたえる、いろどる			
	TEL 0154-23-2381　釧路芸術館　検索						
札幌芸術の森美術館	1/25(土)～4/12(日) みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ 一線の魔術	4/25(土)～6/28(日) 蜷川実花展　―虚構と現実の間に―		7/18(土)～8/25(火) PIXARのひみつ展 いのちを生み出すサイエンス		9/12(土)～11/3(火・祝) ムーミン展 THE ART AND THE STORY	
	TEL 011-591-0090　芸術の森美術館　検索						
札幌彫刻美術館 本郷新記念		～6/21(日) 所蔵品展	6/27(土)～7/16(木) わくわく★ アートスクール 2020作品展	7/23(木・祝)～9/27(日) 舟越桂展 ～ことばの森～		10/3(土)～12/6(日) 本郷新 全部展①	
	～4/22(水) 本郷新の歩みと芸術	4/29(水)～9/27(日)　本郷新のレガシー【五輪の花束】				10/3(土)～2021/4/22(木) 本郷新全部展②	
	TEL 011-642-5709　本郷新彫刻美術館　検索						

○**開館時間**　9：30 ～ 17：00　（入館は 16：30 まで）　※芸術の森 9：45 ～ 17：00（6 月から 8 月は 17：30 まで）
○**休 館 日**　●毎週月曜日（月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館）
●年末年始（12/29 ～ 1/3）　●展示替え期間　（展覧会と展覧会の間）
※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について　貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。

三岸好太郎美術館　芸術週間美術館コンサート
# ～魅惑のギター　幻想とロマンの調べ～
2019年11月2日(土)

秋の芸術週間、彩りも鮮やかな樹々に囲まれた三岸好太郎美術館はこの日サロンコンサートの会場となりました。

演奏者はギターリストの北村隆氏。札幌生まれの北村氏は相対性理論のアインシュタインに憧れて北海道大学・大学院で原子物理学を学んだ異色の経歴を持つ演奏家です。幼少時より両親にギターを学び、大学・大学院卒業後にはスペインへ留学。

その後はギター奏者の巨匠と謳われたホセ・ルイス・ゴンザレス氏に師事を受け、現在は全国各地で活発な演奏活動を行っています。当日は美術館特別展「三岸好太郎と幻想のイメージ」の作品に合わせるような幻想とロマンに溢れた数々の曲が演奏されました。哀愁あるギターの音色とともに曲ごとに語られる北村氏の親しみのある語りは2階フロアまでいっぱいとなった聴衆の心を魅了。アンコール曲「サマータイム」の頃には美術館全体が北村ワールドに引き込まれていました。

三岸好太郎美術館では折に触れコンサートやイベントを開催しています。

お近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

# 第61回学生美術全道展
2019年10月5日(土)～8日(火)
札幌市民ギャラリー

今年度の全道美術協会賞・北海道美術館協力会賞には絵画部門、札幌大谷高等学校3年工藤ももさんの《これから》が選ばれました。

ベニヤパネルに描かれた120号の大作には鋭くも、どこかおびえにも似た不安げな視線が向けられています。

全体的に茶褐色の色合の中に青みを帯びた幾何学的なモザイク模様、そして道路標識の中に若者の将来への不安をさらに感じさせる表現となっています。人物の描き方など、しっかりとしたデッサン力をうかがうことができました。

題名の「これから」の後にはどんな言葉が来ますか?との質問に、一瞬首をかしげて「不安?これから何があるか…」との答え。

これからは人物を中心として自分の気持ちをしっかりと表現していきたいと、今後の抱負を笑顔で語ってくれました。

同展は大学生、高校生らを対象とした絵画、版画、彫刻、工芸の4部門からなり、今回の応募総数121点、このうち入賞、入選は107点。

工藤もも《これから》札幌大谷高等学校

第12回 道展U21
2019年1月31日～2月2日
札幌市民ギャラリー

北海道美術館協力会賞に札幌大谷大学井上由香さんの日本画《さえずり》(50号)が受賞しました。

効果的なマチエールと優しく清涼感にあふれた作品です。

今回の応募総数は平面と立体の計826点。

井上由香《さえずり》札幌大谷大学

「会員募集キャンペーン」と「のみの市」

北海道芸術週間(2019年11月2～4日)にともない協力会では、3日間限定の会員募集キャンペーンを行いました。期間中には「のみの市」が催され図録やポストカードを販売し、連日足を運んでくださるお客様もおりました。また、この機会に入会手続きをされている方も多く、とても有意義なキャンペーンとなりました。

ご入会ありがとうございました　新会員紹介
2019年8月～2020年2月・敬称略

＊個人会員

8月
札幌市　土門　環
〃　石井　達夫
〃　小山　司
〃　増谷　健一郎
〃　木田　幸司
〃　吉田　京子
〃　渡辺　裕子
〃　頼田　千代子
〃　北山　海
〃　島田　英俊
〃　木村　つぎ子
〃　竹林　孝
〃　竹林　貴子
江別市　小竹　葉月

9月
札幌市　寺井　隆太郎
〃　古堂　佳孝
〃　中野　恵里子
〃　長島　淳子
〃　大橋　美保子
〃　堀　じゅん子
〃　渡邉　浩
〃　長谷部　幸子
〃　大林　潔司
〃　石坂　大樹
〃　坪田　由紀子
〃　秋松　まゆみ
〃　浜谷　庸介
〃　両國　かをり
〃　小蔵　敏春
〃　伊藤　長子
〃　髙橋　映子
〃　稲垣　敬子
枝幸町　平田　実千子

10月
札幌市　新井　逸子
〃　沢口　素子
〃　有田　千鶴
〃　佐藤　修子
〃　今野　知帆
〃　山崎　巧
〃　郷間　榮子
〃　松田　久美
〃　金子　美枝子
芽室町　橋本　美惠子

11月
札幌市　辻村　みさお
〃　村井　伸隆
〃　大滝　ひとみ
〃　鴻田　恵美子
〃　景浦　代志江
〃　八谷　弘美
〃　吉村　尚子
札幌市　小倉　純夫
〃　小倉　由美子
〃　山田　ゆか
〃　岩久　鮎美
旭川市　稲葉　よしえ
岩見沢市　むらかみりうこ

12月
札幌市　米森　ひろ子
〃　沼田　勲
旭川市　松井　豊明
石狩市　坂東　功一
沼田町　山本　慎太郎

1月
札幌市　作田　敬子
〃　古田　久美子
〃　桶谷　利幸
小樽市　米脇　靖修

2月
札幌市　成田　文子
〃　HILL・GUY
〃　関口　浩子
〃　加藤　智恵子
〃　飯島　俊夫
大坂府　不二　哲

(アルテピアHP)

ギャラリー・ツアー「至福の30分」

今回ご紹介するのは、協力会ボランティア（解説部部員）による近美コレクションおよび三岸好太郎美術館作品の鑑賞ガイドツアーです。展示替えごとの作品をツアー参加者の年齢や興味に合わせて解説します。

解説部部員はツアーに向けてそれぞれの作品に関する資料を丹念に読み込み、作者の創作意識やその時代背景などを踏まえた丁寧な解説を行います。ツアー参加者一人ひとりに語りかけるようなわかり易く親しみのある解説は、聴き終えると同時にもう一度聴きたくなるような「至福の30分」を味わえることと思います。

ツアー参加、お待ちしています！

- **近代美術館　火曜～土曜日（祝日を除く）**
  ①11:30～　② 13:00～　③ 14:00～
- **三岸好太郎美術館　火曜～土曜日（祝日を除く）**
  ①13:00～15:00　随時

ジュニアアートクラブ2019 和紙アート　色が織りなす折りたたみ染め
―雪や華の模様が現れるかな―

2月15日（土）、近美造形室において染色家の講師を招き、21名の子供たちが作品作りに挑戦。つづら折りに苦戦していました。色付けが終わり和紙を開いてみると、濃淡やにじみの混色など不思議な模様が出来上がり。雪華染めに魅せられたようで、みなさん「楽しい！」と次々と制作していました。2年ぶりに開催されたジュニア・アート・クラブでしたが、たくさんの方に参加して頂きました。

出来上がった作品はキャンバスに貼り、近美2階特設会場に展示されました。

「美術への誘い」
―クイズも取り入れ和やかに―

2019年11月8日（金）に、ボランティア活動員の特別活動部による「美術への誘い」が、今回初めての地域となる南区の藤野地区センターにおいて催されました。

多くの方に美術に親しみ、興味を持っていただくために企画されたもので、今回は《私は誰でしょう？―画家の自画像―》《浮世絵―広重名所江戸百景―》《ルノワール》という様々なジャンルから網羅された3講座でした。

当日は、初めての場所にもかかわらず10名余の参加者を数えました。クイズ形式で話を進めていく巧みさに思わず引き込まれ、会場は和気あいあいとした雰囲気に包まれていました。

第35回　海外美術研修
美の探訪
スペインの美術館・博物館と世界遺産を訪ねて
2019年10月23日（水）～11月1日（金）　10日間

サクラダ・ファミリア教会外壁

トレドの街全景

モダリズム

ミロ美術館玄関の人

近美Museum Shop

林工房ランプ
メノウ天然石　16,500円

カンバッジ（大）450円
カンバッジ（小）330円

かたるべの森美術館
アールブリュット

ノート（B5）550円

紅露はるか
バッジ360円
ポストカード150円

編集だより

■編集担当として関わる期間が長くなりました。いつも出来上がったアルテピアを前に、上手く編集が出来たかドキドキします。各美術館の取り組みや協力会ボランティアの活動が皆さんに興味深く伝わり、さらに美術ファンのすそ野が広がれば良いと思います。（S）